

平成21年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)、及び改善策等
1 生徒の学力をより一層高めるために教科指導の質的向上に努めるとともに、あらゆる学習活動を通して論理的思考力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の伸張を図る。	① 生徒の学習意欲を高め、学力をつける授業を展開する。	理解される授業が展開されている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 【達成目標 A+Bが80%以上】	生徒による授業評価(7月→12月) A 29.4% → 30.1% B 48.1% → 46.7% C 17.3% → 17.9% D 5.1% → 5.4% A+B=77.5% A+B=76.8%	目標の80%を達成することができなかった。学年別・教科別で昨年度と比較すると、評価の上がった教科が7、下がった教科が10であった。指導内容を落とさずに、さらに理解度を上げるため、教科会での協議・研修を継続して指導方法の改善に努める。また、生徒には予復習の徹底を図りたい。来年度も継続して取り組む。
		学力の向上に役立っている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 【達成目標 A+Bが80%以上】	生徒による授業評価(7月→12月) A 28.7% → 29.7% B 52.5% → 51.5% C 15.1% → 14.9% D 3.7% → 3.9% A+B=81.2% A+B=81.2%	学力向上に役立っていると感じている生徒が80%を超え、目標を達成することができた。しかし、昨年度と比較するとA+Bが約4%低くなっている。この点を発奮材料とし、併せてDの評価がより減少するように、今後ますます学力を高める指導に力を入れていきたい。来年度も継続して取り組む。
	② 習熟度別授業を生かし、個々の生徒の能力を引き出す。	習熟度別少人数授業は学習理解と学力向上に役立っている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 【達成目標 A+Bが80%以上】	生徒による授業評価(7月→12月) A 38.4% → 36.3% B 41.9% → 40.5% C 13.6% → 15.4% D 6.1% → 7.8% A+B=80.3% A+B=76.8%	習熟度別少人数授業は英語と数学で実施しているが、A+Bの割合が目標の80%を達成できなかった。ただし昨年と比較して3年生は全て評価が上がっている。評価を下げた1・2年生について原因を分析した結果、次年度は習熟度別少人数授業の実施学年、講座の構成等を変えることで学習効果の向上を図っていく。併せて教科独自にアンケートを実施し、常に実態把握に努める。
	③ 授業やあらゆる学校行事の機会を利用して、生徒が自分の意見や調べたことを発言・発表できる場と雰囲気をつくり、物怖じせずに応答や意見発表ができる生徒の増加を図る。	授業に意欲を持って積極的に参加している。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない 【達成目標 A+Bが80%以上】	生徒による授業評価(7月→12月) A 25.8% → 26.9% B 49.5% → 49.3% C 20.8% → 20.0% D 3.9% → 3.7% A+B=75.3% A+B=76.2%	前期に比べ後期は若干ではあるが授業に積極的に参加している生徒が増加した。しかし目標の80%達成はできなかった。今年度新たに加えた項目であるが、前期の学校関係者評価委員会で指摘があったとおり、次年度はプレゼンテーション能力の伸張度を判断できる質問項目に変えていきたい。
		学校行事において、生徒が自分の考えや意見を発言・発表できる企画数の合計が A 年間10回以上である B 年間8回以上である C 年間6回以上である D 年間6回未満である 【達成目標 年間8回以上】	【いしかわスーパーハイスクール事業】 ・英語イベントコンテストおよびスピーチコンテスト ・修学旅行発表会 IおよびII ・ガレリア発表(2回) ・中国訪問報告会 ・産学発見発表会 今年度実績 全8回	学校行事として企画し実施したものは左表のとおりで、合計8回であった。ガレリア発表については生徒(会)主体のものとして活用する余地がまだありそうである。他にもコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の伸長を意識した指導を全校挙げて実施している。次年度は企画数だけではなく、成果をあげるための努力や意欲を問う質問項目に変えていきたい。
	学校関係者評価委員会の評価	・それぞれの課題に対する改善策が次年度にしっかりと引き継がれることを期待する。 ・コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力伸張のための取組は大切なことである。ただ、実施回数で判断する表面的な評価に終わらず、発表の質を伴う真の意味のプレゼンテーション能力育成が望まれる。授業においてもそれが養成されるように取り組んでほしい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・結果分析を踏まえて次年度の学校経営計画に反映させていく。この経営計画に基づいて各教員がそれぞれ具体的に取組んでいくことになる。 ・本校は国際社会に貢献できる人材の育成に努めている。ゆえにコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を重点目標に掲げているのであり、ご指摘のとおり、授業をはじめあらゆる教育活動の中で本来の目的が果たせるように全校あげて今後も取り組んでいく。			

平成21年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)、及び改善策等
2 生徒が高い進路目標を持ち、目標に向かって邁進していくことのできる進路指導体制の確立をはかる。	① 1年は職業研究、大学訪問・企業施設等の体験学習、2年は大学出張講義、大学研究、インターンシップ等の体験学習、また全学年で進路講話を実施する。	各学年の取組が自分の進路選択にとって真摯に考えるための有効な機会になっている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない 【達成目標 A+Bが80%以上】	1年：大学見学(8月) A+B=100% 進路講話(10月) A+B=79.8% 2年：インターンシップ(7.8月) A+B=97% ：大学出張講義(10月) A+B=89% ：進路講話(11月) A+B=74.3% 3年：進路講話(6月) A+B=70.6%	進路講話については3学年とも80%に届かず、昨年度より評価が下がった。次年度は形式や内容について再検討する。出張講義については高評価だが、内容が高度すぎるといふ指摘があり、これも内容を改善していきたい。インターンシップは昨年度より高評価であり、企業側の評価も高かったことと考え合わせると、参加生徒の意識の高さと事前指導の効果によるものと思われる。次年度も継続。
	② 担任や各学年の進路指導が効果的に行われるよう行事や情報提供を行う。また、各学年ごとの進路目標が適切に理解されるような取組を行う。	各学年ごとの進路目標がよく理解され、進路関係の諸行事が効果的に行われている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない E わからない 【達成目標 A+Bが80%以上】	職員による自己評価(7月→12月) A 4.6% → 6.2% B 63.1% → 63.1% C 18.5% → 20.0% D 1.5% → 4.6% E 12.3% → 4.6% A+B=67.7% A+B=69.3%	A+Bが前後ともに70%を割っている。「あてはまらない」が20%前後と5人に1人の職員が進路目標と進路行事に対して理解していないという結果は大いに反省しなければならない。次年度以降、各教科・各課とも情報交換を密に行ない、進路目標とそれに向けての取組を周知徹底するとともに、進路指導に関して率直な意見を聴いて今後の指導に取り入れていきたい。次年度も継続して取り組む。
	③ 進路指導に関する教職員校内研修をより充実させ、指導力向上と生徒・保護者への情報の提供をおこなう。特に保護者に対してはホームページも活用し、情報提供に努める。	進路指導・情報提供が適切である A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない E わからない 【達成目標 A+Bが80%以上】	生徒(12月) 保護者(12月) A 21.8% A 16.9% B 64.3% B 58.7% C 11.1% C 8.4% D 2.8% D 0.7% E 15.2% A+B=86.1% A+B=75.6%	生徒、保護者ともに昨年度同様の結果であるが、保護者に関してはA+Bが昨年度に引き続き80%を下回った。本校ホームページでの進路関係の情報をこまめに更新していきたい。また次年度はPTA総会時の3年生保護者対象進路説明会と秋の2年生保護者対象の進路説明会で独自に簡単なアンケート調査(要望等の調査も含む)を実施したい。次年度も継続して取り組む。
	④ 生徒に高い進路目標を持たせ学習に意欲的に取り組ませることにより、学年当初と学年末における校外模試全国偏差値の高い生徒数の維持、増加をはかる。	1年と2年の、1月実施の校外模試における全国偏差値60以上の生徒数は、7月の実施校外模試結果に比べ A 120%以上となった B 100%以上となった C 80%以上となった D 80%未満となった 【達成目標 100%以上】	偏差値60以上の生徒数(英数国総合) 1年進研模試 7月 → 1月 7月 1月 % 判定 215名 204名 95% C 2年進研模試 7月 → 1月 7月 1月 % 判定 200名 183名 92% C	11月の模試では、1・2年生60以上の数がそれぞれ209名、205名とほぼ横ばいもしくはやや増加している。しかし、1月には60以上の総数が2学年とも減少しており、過去のデータからも本校の課題が秋から冬にかけての学習にあることがわかる。特に教科の小問ごとの得点率の変化などを見て、弱点分野の補強を各教科と連携して行なうとともに、生徒自身の生活や進路志望についても「生活・学習実態調査」等で詳細に検証したい。継続実施。
	⑤ 難関大学訪問等に積極的に参加させ、志望校別補習を充実させるなど手厚い学習指導体制を確立する。	現役生徒の合格者数が目標数の A 100%以上である B 90%以上である C 80%以上である D 80%未満である 【達成目標 90%以上】	国公立大学現役合格者数 (目標 220名) → 222名 A 難関大+金沢大現役合格者数 (目標 120名) → 95名 D	国公立大学合格者数は目標を達成した。国公立大学志望者の強い意志を維持したことがよかったと思われる。ただし、難関大学+金沢大学の総数はD判定と、達成目標にはほど遠い結果になった。3年秋の校外模試の全国偏差値が52~53から55~57になるような指導を1・2年次から行なっていきたい。目標値を上げて継続していく。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的にしっかりした指導がなされている。 ・進路の情報提供で保護者の数値が目標値に達しなかったことで、保護者の要望等をアンケート調査していくという改善策はよいことである。 			
学校関係者評価委員会お評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報提供は、基本的には生徒を介してプリントを配付するシステムであり、学校行事やクラス活動・進路情報等、様々な教育活動を保護者にお伝えしているつもりである。しかし学校側の自己満足に陥らないようにするために、また保護者にとって必要な情報を適切な時期に伝えるために、機会をみつけて幅広く保護者の意見を取り入れられるように工夫していきたい。 			

平成21年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)、及び改善策等
3健康の促進と体力の向上を図りながら、進学校としての部活動を追究し、品位ある言動ができる自己管理能力を育成する。	①生徒が自ら健康課題に積極的に取り組み、体力の向上を図る。	体力テストにおいて、前年度全国平均より高い項目の数が男女ともに9項目中の A 6項目以上 B 4～5項目 C 2～3項目 D 2項目未満 【達成目標 B以上】	(今年度は全学年とも8項目でテスト実施) 男子 1年(8項目) 2年(6項目) 3年(8項目) 女子 1年(8項目) 2年(8項目) 3年(8項目) A	全体の80%以上の生徒が意欲的に授業に参加していることに加え、年間を通じて行っている授業導入時の各種トレーニングの効果が現れ、2年男子の筋力系のテスト2項目以外はすべて前年度の全国平均を上回った。次年度は基準を同じ年度の全国平均と比較する取組として継続し、バランスのとれた体力養成を目指したい。
	②部活動の活性化を推進しながらも、進学校としての部活動のありかたを追究し、部活動と学習との両立を図る。	4月に部登録した1・2年部員の在籍率が A 98%以上である B 95%以上である C 92%以上である D 92%未満である 【達成目標 B以上】	4月登録部員数を基準とした10月現在の在籍率 1年男子 93.0% 女子 99.0% 2年男子 90.7% 女子 92.0% 全体=92.8% C	4月から10月までの半年間で約7%(46名)の在籍者減となっている。学年別でみると1年が6名減、2年が40名減であった。2年生で退部する割合が高くなるのは勉学を優先した結果と思われる。本校のモットーである文武両道を推進するためにも、部顧問と担任が連携して相談・支援している現体制を継続していく。
		部活動と学習の両立ができている A 両立できている B だいたい両立できている C 学習がおろそかになりがちである D 両立できなく悩んでいる 【達成目標 A+Bが70%以上】	1年(12月) 2年(12月) A 11.1% A 11.3% B 41.7% B 38.3% C 39.2% C 40.7% D 8.0% D 9.7% A+B=1年52.8% 2年49.6%	1年、2年とも前期調査よりも後期調査のほうがA評価、B評価ともに若干ではあるが向上している。自分なりの生活ペースが確立してきたものと思われる。前期の学校関係者評価委員会でご指摘をいただいたとおり、次年度はより客観的に判断・評価できるように工夫をして、継続して取り組んでいく。
	③品位ある服装容儀を確立するために教職員の一致した指導と生徒の自覚を求める。	①本校生徒の服装容儀はしっかりとしている ②本校生徒の挨拶はきちんとしている A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない 【達成目標 A+Bが70%以上】	(生徒が他の生徒をみて 12月) ①服装容儀 ②挨拶 A 11.3% A 24.5% B 68.2% B 56.8% C 17.0% C 15.3% D 3.5% D 3.4% A+B=①79.5% ②81.3%	【参考】(教員が生徒をみて 12月) ①服装容儀 ②挨拶 A 3.0% A 0% B 50.0% B 36.4% C 40.9% C 54.5% D 6.1% D 9.1% A+B=① 53.0% ② 36.4% (昨年 45)
		①自分は正しい服装容儀をしている。 ②自分は挨拶をきちんとしている A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない 【達成目標 A+Bが80%以上】	(生徒が自分自身について 12月) ①服装容儀 ②挨拶 A 40.3% A 47.6% B 50.9% B 49.0% C 7.6% C 3.0% D 1.1% D 0.4% A+B=①91.2% ②96.6%	生徒の自分自身に対する評価よりは他の生徒に対する評価の方が辛目である。さらに教員からの評価と比べるとその評価に大きな隔たりがある。立場の違いで大きく評価が分かれるところであるが、今後も教員からみても高い評価が出るように服装容儀・挨拶の指導を継続していく。
④規則正しい生活習慣を維持できるように、教職員の一致した指導のもと、朝の5分前登校、放課後7時の完全下校を守らせる。	生徒は朝の5分前登校、放課後7時の完全下校を守っている。 A よくあてはまる B おおむねあてはまる C あまりあてはまらない D 全くあてはまらない 【達成目標 A+Bが90%以上】	【5分前登校】 生徒 教員 A 74.7% 15.2% A 73.0% 13.6% B 16.8% 74.2% B 22.3% 69.7% C 6.4% 10.6% C 4.0% 10.6% D 2.1% 0.0% D 0.7% 1.5% A+B=生徒は90%以上、教員は80%以上	5分前登校、完全下校については、生徒が90%以上、教員は80%以上が守っているという集計結果であった。特に5分前登校に関しては、4月以来ずっと生徒課を中心とした職員が毎朝校舎周辺に立ち、挨拶運動も兼ねて登校生徒に声かけをしてきた成果である。次年度以降も引き続き、全職員の協力体制の下、この指導を続けていく。	
⑤様々な読書活動を通して生徒の読書意欲を向上させ、図書館の貸出冊数の増加を図る。	図書貸出生徒の割合が前年度より A 10%以上増加した B 5%以上増加した C ほとんど変化しなかった D 5%以上減少した 【達成目標 B以上】	昨年との比較(12月末現在) 図書貸出生徒数 56%増加 A 昨年 361人 → 今年 564人 図書貸出冊数 昨年2,700冊 → 今年2,596冊	1年生のガイダンスに力を入れたため1年生の生徒数は大きく増加した。2年生も昨年に比べ15%強増加。3年生は大きく減少した。貸出冊数は全体で4%弱減少した。図書委員会活動をさらに活発化し、教科の協力を得ながら学校図書館の利用促進を呼びかけ、生徒の読書量の増加を図りたい。次年度以降は平常業務とする。	
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に教員も生徒も、ともによくがんばっていると評価できる。 服装や挨拶についての評価結果が生徒と教員とで大きな差があることについて、どちらがより正確であるかという判断や意見は分かれるところであろう。教員と生徒とで話し合ってみるのもよいかと思う。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立を目指して、遅刻指導や挨拶運動などを含め様々な指導を実施してきたが、1年間継続して取り組んできた成果が確実に現れていると実感している。今後も規範意識の高揚を目標に継続して実施していくが、教員側と生徒との間に大きな意識のずれがある問題については、ご指摘のとおり生徒代表と教員とが話し合う機会・場面を設けて、互いに納得したうえで指導を実施していきたい。 			